

事業の基礎情報

実施主体	千歳市
事業実施地域	泉沢向陽台地域のうち居住地（若草、白樺、里美、柏陽、福住、文京、泉沢の一部）
共創の類型	官民共創、他分野共創
他分野共創の類型	医療・介護・福祉
共創パートナー	北海道千歳リハビリテーション大学、泉沢向陽台町内会連合会、千歳市向陽台区地域包括支援センター、千歳相互観光バス株式会社、千歳市地域公共交通活性化協議会
運行形態	AIオンデマンド交通
運行主体	千歳市

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

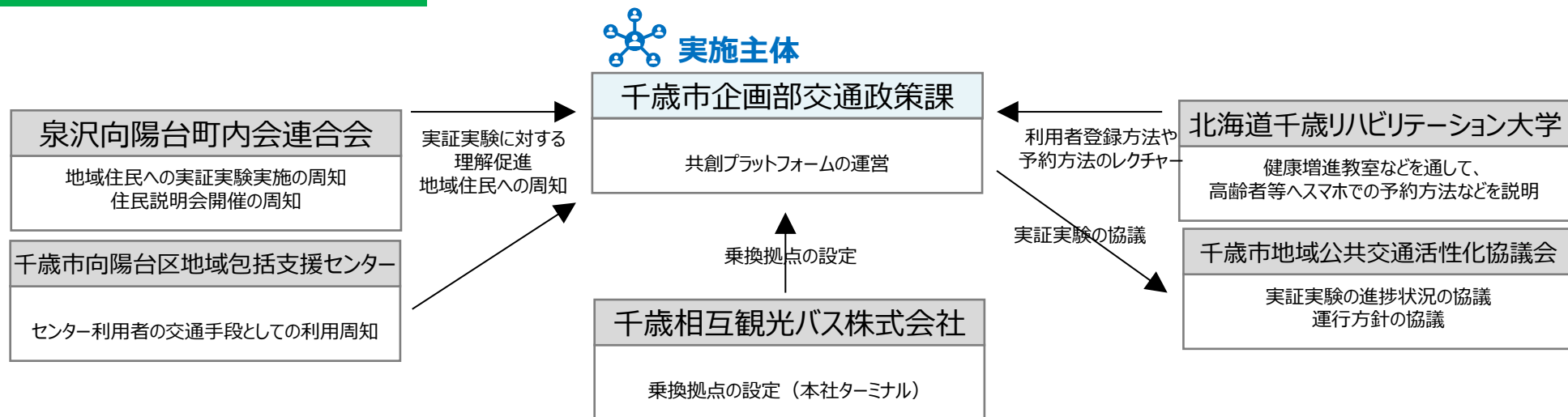
泉沢向陽台（人口約9,000人）は、昭和50年代、中心市街地から約10km離れた郊外にニュータウンとして開発した地域であり、少子高齢化が進んでいる（平均年齢50歳超）。市街地と結ぶ公共交通は、路線バス1社により向陽台の住宅地内を周っているが、昨年、運転手不足により約25%減便し、今後も運転手の年齢構成から運転手不足が加速すると推測している。

そのため、住宅地内にAIオンデマンド交通を導入することで、免許返納など公共交通の必要性の高まりに対応するとともに、地域内の交通を効率化し、路線バスの運行に係る運転手の人員を削減することで、持続可能な公共交通の維持・確保を図る。

（事業の概要）

泉沢向陽台の住民は、地域内を周回し、千歳駅へ向かう路線バスで市街地へアクセスしているが、持続可能な公共交通の維持・確保を図るため、地域内の町内会や大学、地域包括支援センターなどと連携し、地域内の枝葉の交通を「AIオンデマンド交通」、地域と市街地を結ぶ幹の交通を「路線バス」（将来的に自動運転化を想定）が担うよう、当該地域における公共交通の「リ・デザイン」を図る。

事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

（地域の関係者との連携・協働）

泉沢向陽台は、「高齢化の進展が著しい地域」であることや「リハビリテーションの専門大学がある」といった地域特性から、高齢者の活動範囲を拡大し、外出機会が増加することにより、健康寿命を延ばし、「長寿で健康な地域づくり」に繋げるほか、学生が機器の操作に不慣れな高齢者にWEBによるオンデマンド交通の予約方法を教えることで、将来的に電話予約を縮小するなど、持続可能な交通とする。具体的には、大学が実施している「健康増進教室」と連携し、参加者（＝オンデマンド交通利用者）を増やすことや、学生が参加者に予約方法などを教え、「世代間交流」が生まれることで地域活性化を図ることのほか、向陽台町内会連合会や地域包括支援センターにおいて、交通手段の転換を好機と捉え、地域住民にライフスタイルの変更を受容してもらえるよう促すなど、各所と連携して取組を行う。

（実証事業により見込まれる効果）

路線バスの運転手不足に対応する効果としては、住宅地を周回する部分を廃止することで、1日当たり約2人工の人員削減が図られ、バス路線やダイヤの維持の一助となる。地域に及ぶ効果としては、大学などへのアクセス向上により、活動範囲が拡大し、外出機会の増加につながるほか、大学が開催する健康増進教室に参加を促すことにより、地域とのつながりの強化や住民の健康増進につながるなど、地域の活性化に資する事業とする。

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)

	令和6年度(2024年度)											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
交通政策課	交通事業者・システム事業者選定			乗降地点調整	住民説明会		実証実験の実施				次年度運行方針決定	
協議会			進捗報告			実施詳細報告			経過報告		実績報告	
リハビリテーション大学						健康教室に合わせて利用促進(利用者登録、予約方法を教える)						
その他 (向町連、包括支援センター)					説明会周知	利用の呼びかけ(向町連だより、センター利用者への周知)						

<関係各所の取組>

千歳市(交通政策課)：4月から6月にかけて、運行に必要な事業者の選定を行い、実証実験に向けた調整や地域への周知を行っていく。実証実験終了後は結果を踏まえて、次年度の運行方針を決定する。

協議会：市、交通事業者、市民、北海道運輸局、道路管理者などで構成しており、定期的に本事業の進捗について共有する。

リハビリテーション大学：地域住民を対象に実施している「健康増進教室」に合わせ、学生が参加者に利用者登録や予約方法を教える。

向町連・地域包括支援センター：町内誌(向町連だより)により、本事業を周知するとともに、地域住民やセンター利用者に利用を促す。

(補助事業実施後の予定)

- ・現在、市内路線バス事業者に対し、市が赤字相当額分を補助しており、本事業についても本格運行後は同様の対応を想定している。
- ・本格運行後は、ランニングコストが発生する想定をしているが、現在、向陽台住宅地内において路線バスが周回する経費(削減が見込める経費)とほぼ同額であり、市の補助額に与える影響は軽微と見込んでいる。
- ・本格運行後も共創プラットフォームは継続し、商業施設など、連携先を拡大させていく予定。
- ・地域公共交通計画に運転手不足に対応する「AIオンデマンド交通」と「自動運転バス」を位置付けており、「自動運転バス」については、千歳駅と泉沢向陽台を結ぶ区間で、令和6年度から実証実験を開始し、「AIオンデマンド交通」と接続することを想定している。